

記念講演会



「新出《伊東マンショの肖像》を読み解く—

ヤーコポおよびドメニコ・ティントレットの工房との関係から—」

2017年10月28日(土) 14時~15時 (開場 13時30分)

会場：東京富士美術館／本館 ミュージアムシアター

料金：無料 (ただし、展覧会の入場料金が必要、土曜は中小生無料)

申込：不要。定員 200 名 ※当日正午より、講演会場入口にて入場整理券を配布 (お一人様一枚配布)

講師：小佐野重利 (おさの・しげとし)



■講師プロフィール：

東京大学名誉教授、同大学院教育学研究科特任教授。1951年山梨県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程中途退学。東京大学大学院人文社会系研究科教授、同研究科長・文学部長を経て退職。現在も同大学院教育学研究科特任教授として学生相談ネットワーク本部長を兼務。1995/96年度ポール・ゲッティ美術史人文学研究所招聘研究者。2003年イタリア政府よりイタリア連帯の星騎士・騎士勲位章、2009年同星騎士・コメンダトーレ勲位章を受章、2010年ミラノのアンプロジャーナ・アカデミー会員に選出。2011年より国際美術史学会(CIHA)副会長、2014年より日本学術会議会員、2017年より東京大学名誉教授。

著書に『記憶の中の古代—ルネサンス美術にみられる古代の受容—』(第16回マルコ・ポーロ賞受賞、中央公論美術出版、1992年)、『ラファエッロと古代ローマ建築』(編共著、中央公論美術出版、1993年)、『《伊東マンショの肖像》の謎に迫る—1585年のヴェネツィア』(三元社、2017年)他多数。

展覧会に、『レオナルド・ダ・ヴィンチ—天才の肖像』(監修、TBS、2013年)、『ボッティチェリ展 Botticelli e il suo tempo』(共同監修、朝日新聞社、2016年)など。

■内容：

2014年3月に再発見が報じられたドメニコ・ティントレットの《伊東マンショの肖像》が、昨年の東京と九州2県での初公開に続いて、今回「遙かなるルネサンス」展に来日した。

現在の所有者が絵のX線撮影やキャンバス裏面の銘文の調査をした結果、古い時代の西洋絵画の新出作品では極めて稀なことだが、画家工房を出てから現在に至るまで、来歴が途切れずにたどれるという出自の確かな肖像画とわかった。

今回、さらに調査したところ、X線写真で判明する肖像画表の銘文とそれを裏に転写した銘文は、少年使節がヴェネツィア政府に奉呈した1585年7月2日付け四人連署の感謝状(今回の「遙かなるルネサンス」展に展示、カタログNo. 54)の記載に基づくことが判明。描いたのは、肖像画制作で名声を博した息子ドメニコであるとみて間違いはない。(講演要旨)